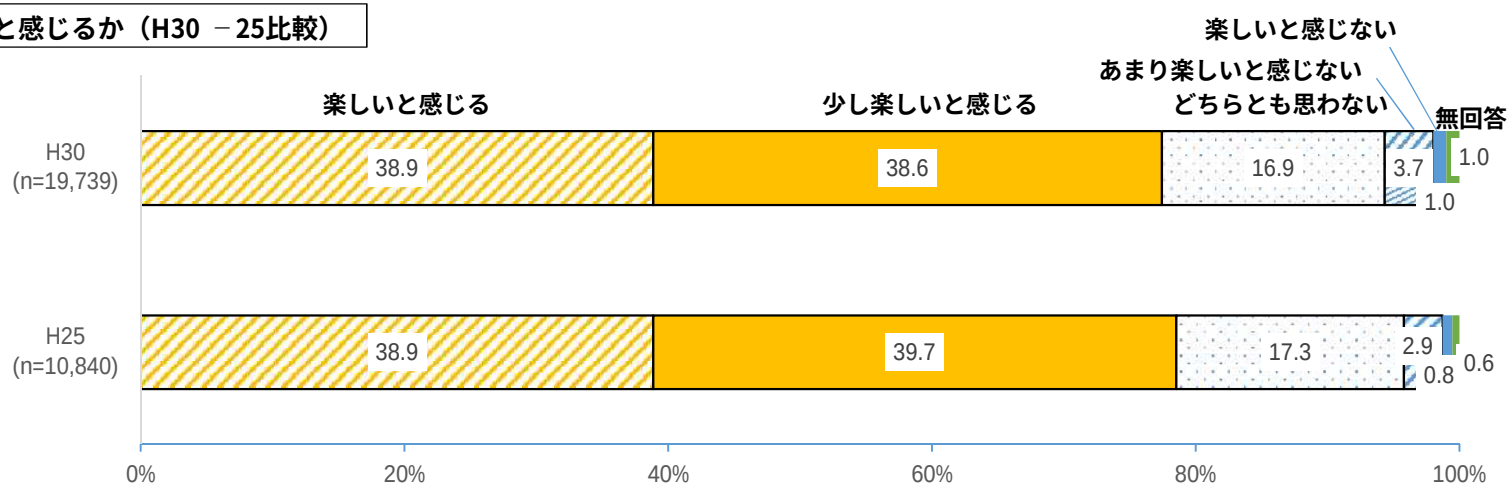
子育てについての楽しさや負担感の程度

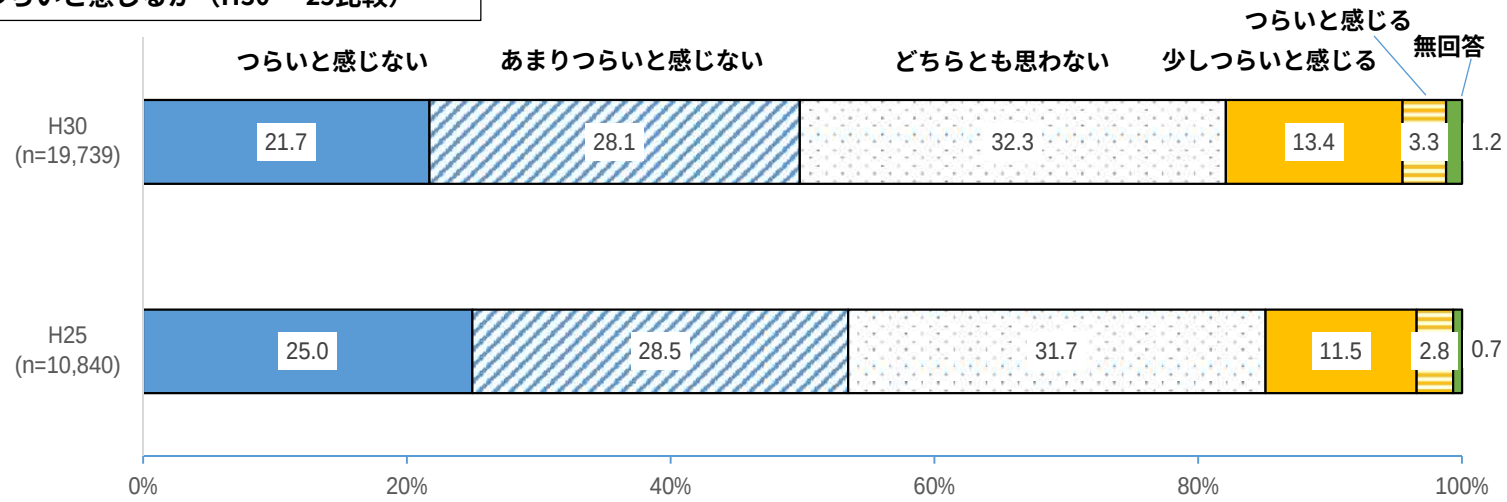
- 子育てを楽しいと感じるかについては、「楽しいと感じる」が38.9%で最も多く、次いで「少し楽しいと感じる」が38.6%で、両者をあわせた『楽しいと感じる』は77.5%となっている。

子育てを楽しいと感じるか（H30 －25比較）



- 子育てをつらいと感じるかについては、「どちらとも思わない」が32.3%で最も多く、次いで「あまりつらいと感じない」が28.1%で、「つらいと感じない」（21.7%）と「あまりつらいと感じない」をあわせた『つらいと感じない』は49.8%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べて、『つらいと感じない』は3.3%低くなっている。

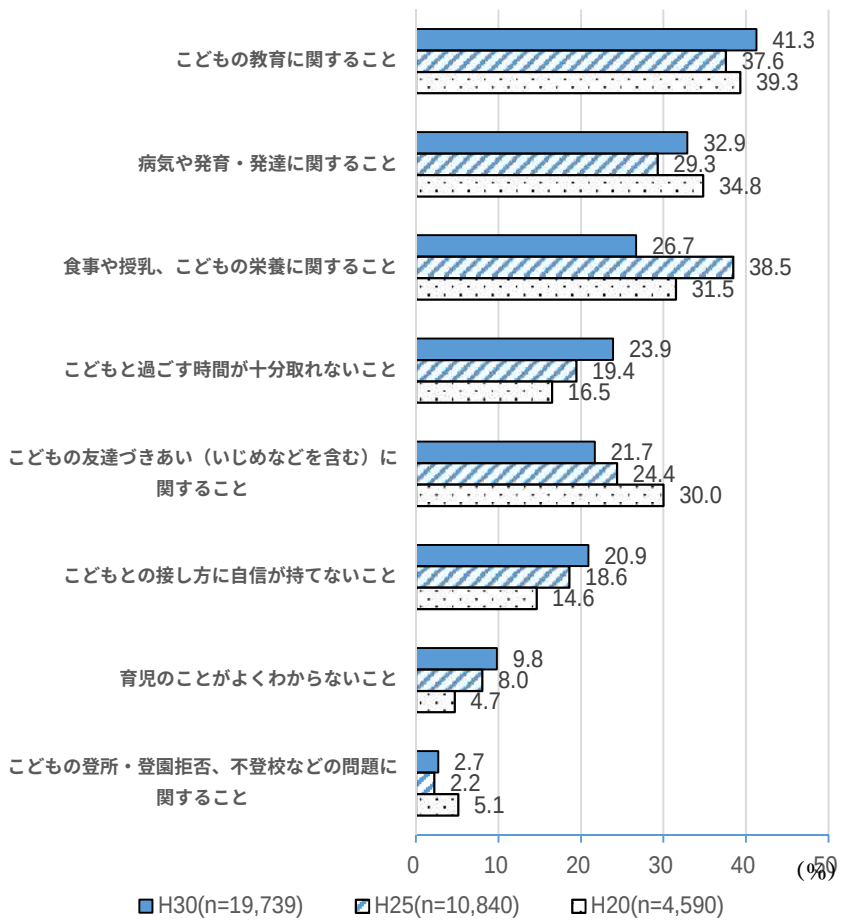
子育てをつらいと感じるか（H30 －25比較）



子育てに関する悩み

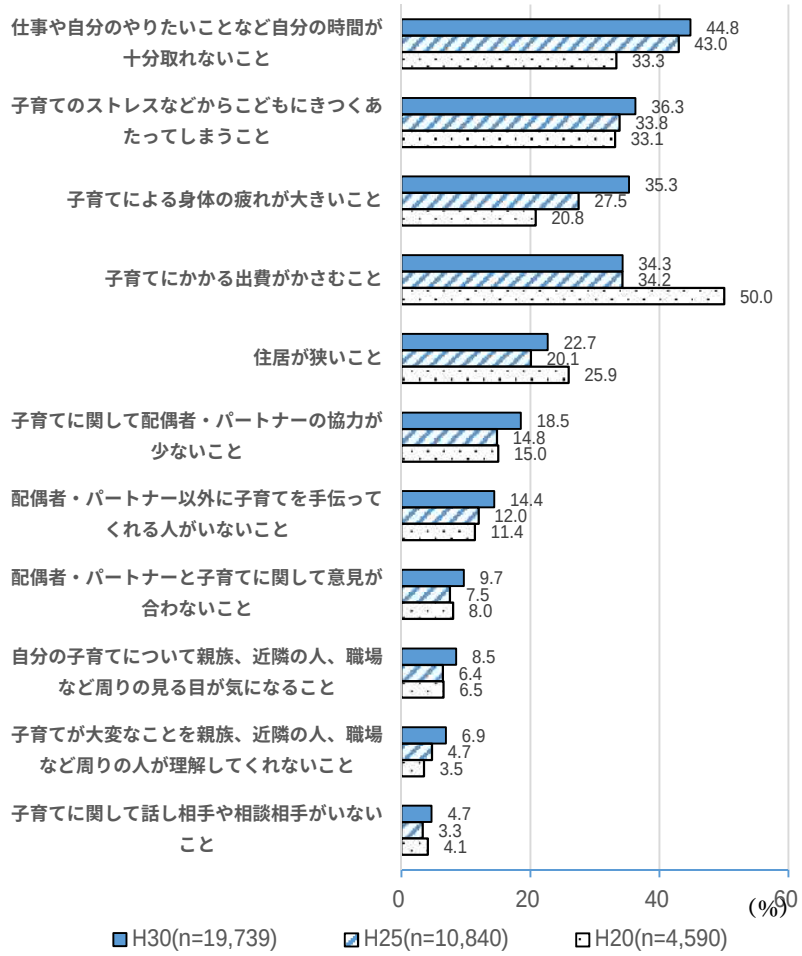
- 子育てに関する悩みについては、「こどもの教育に関すること」が41.3%で最も多く、次いで「病気や発育・発達に関すること」が32.9%、「食事や授乳、こどもの栄養に関すること」が26.7%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「食事や授乳、こどもの栄養に関すること」（平成25年調査では「食事や栄養に関すること」）が11.8ポイント低くなっており、「こどもと過ごす時間が十分取れないこと」は4.5ポイント高くなっている。

子育てに関する悩み（H30 －25－20比較）



- 保護者自身に関する悩みについては、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が44.8%で最も多く、次いで「子育てのストレスなどからこどもにきつくあたってしまうこと」が36.3%、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が35.3%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」（7.8%増）が高くなっている。

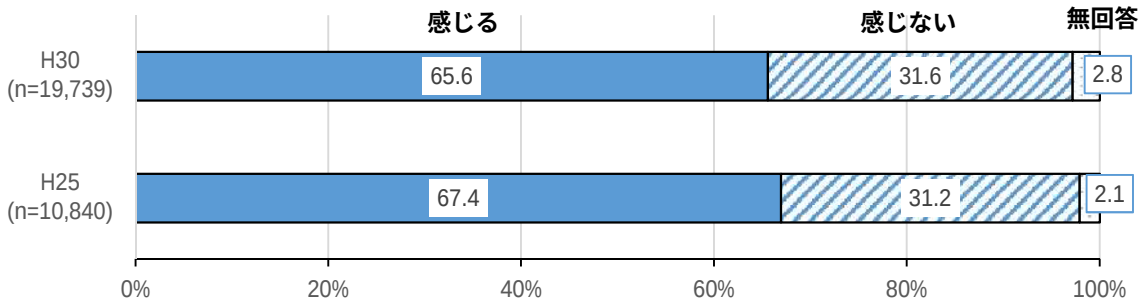
保護者自身に関する悩み（H30 －25－20比較）



子育てに対する地域の人や社会からの支え

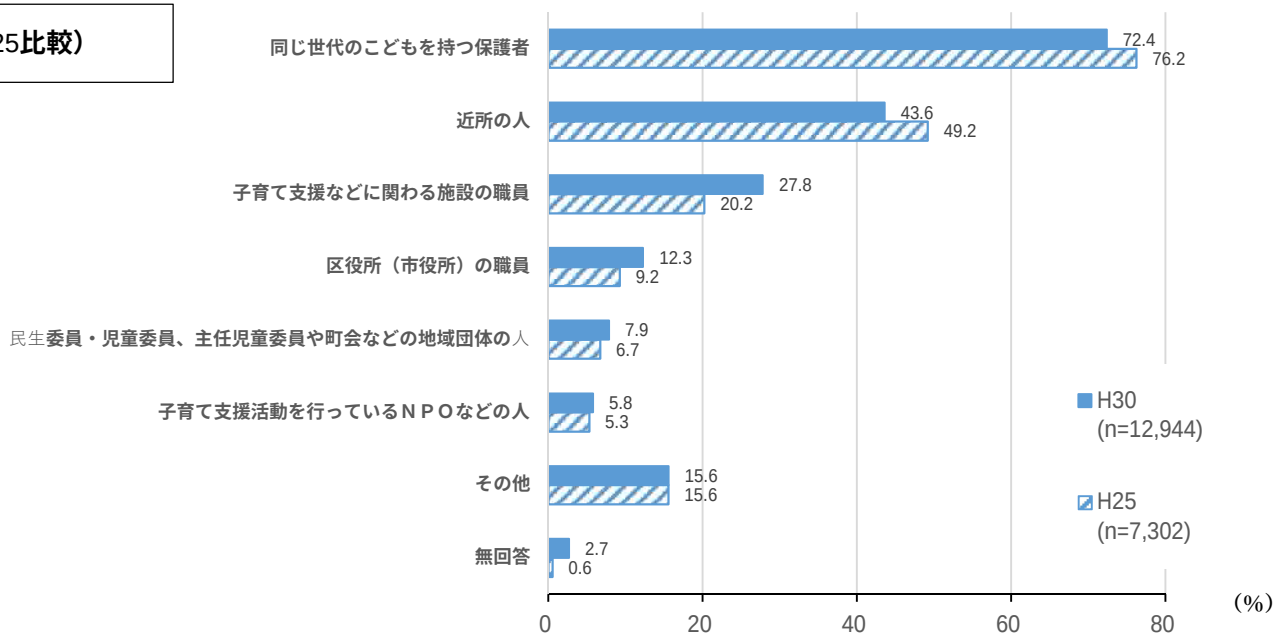
- 子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるかについては、「感じる」が65.6%、「感じない」が31.6%となっている。

地域の人や社会に支えられていると感じるか
（H30-25比較）



- 誰に支えられていると感じるかについては、「同じ世代のこどもを持つ保護者」が72.4%で最も多く、次いで「近所の人」が43.6%、「子育て支援などに関わる施設の職員」が27.8%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「近所の人」（5.6ポイント減）や「同じ世代のこどもを持つ保護者」（3.8ポイント減）は低くなっており、「子育て支援などに関わる施設の職員」（7.6ポイント増）や「区役所（市役所）の職員」（3.1ポイント増）は高くなっている。

誰に支えられていると感じるか（H30-25比較）

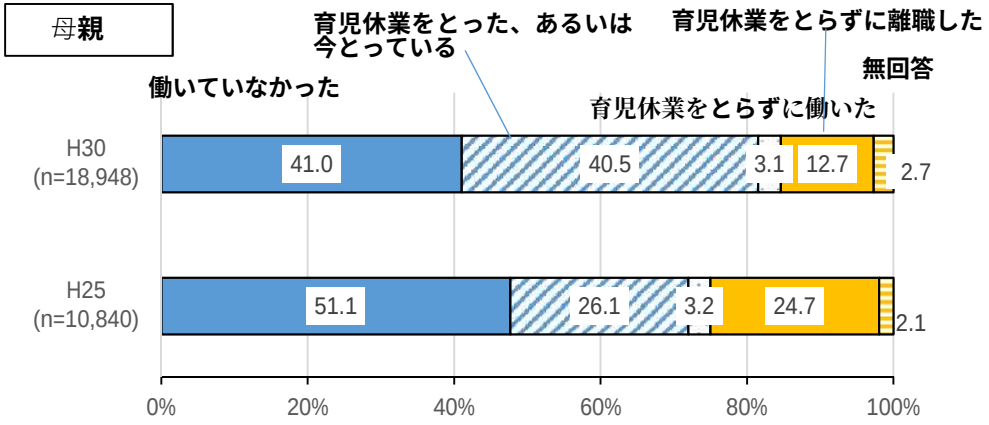


育児休業の取得状況、仕事と子育てを両立させる上で大変なこと

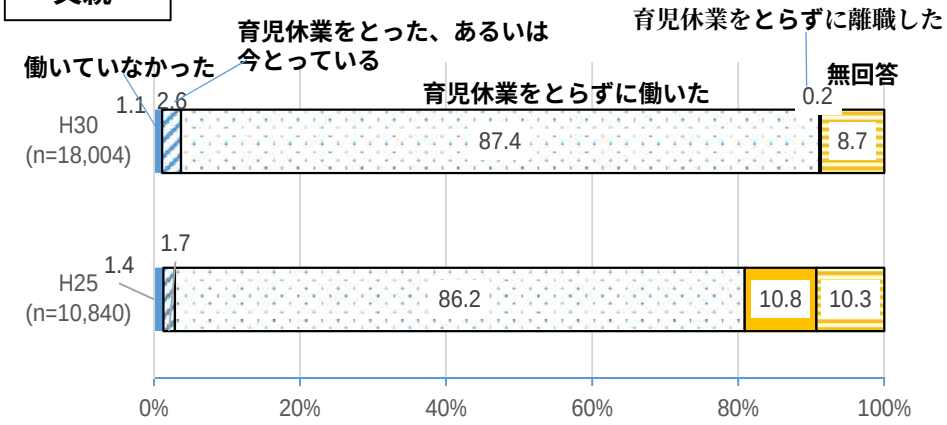
- 母親の育児休業の取得状況は、「働いていなかった」が41.0%で最も多く、次いで「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が40.5%、「育児休業を取らずに離職した」が12.7%となっている。
- 父親の育児休業の取得状況は、「育児休業を取らずに働いた」が87.4%で最も多く、次いで「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が2.6%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、母親は「働いていなかった」が10.1ポイント低くなり、「育児休業を取った、あるいは今取っている」が14.4ポイント高くなっている。

- 仕事と子育てを両立させる上で大変なことは、「病気やけがをした時に代わりにこどもをみてくれる人がいないこと」が59.6%で最も多く、次いで「こどもと接する時間が少ないこと」が50.4%、「残業や出張が入ること」が35.2%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「こどもと接する時間が少ないこと」が7.2ポイント高くなり、「職場に子育てを支援する制度がないこと」が5.1ポイント低くなっている。

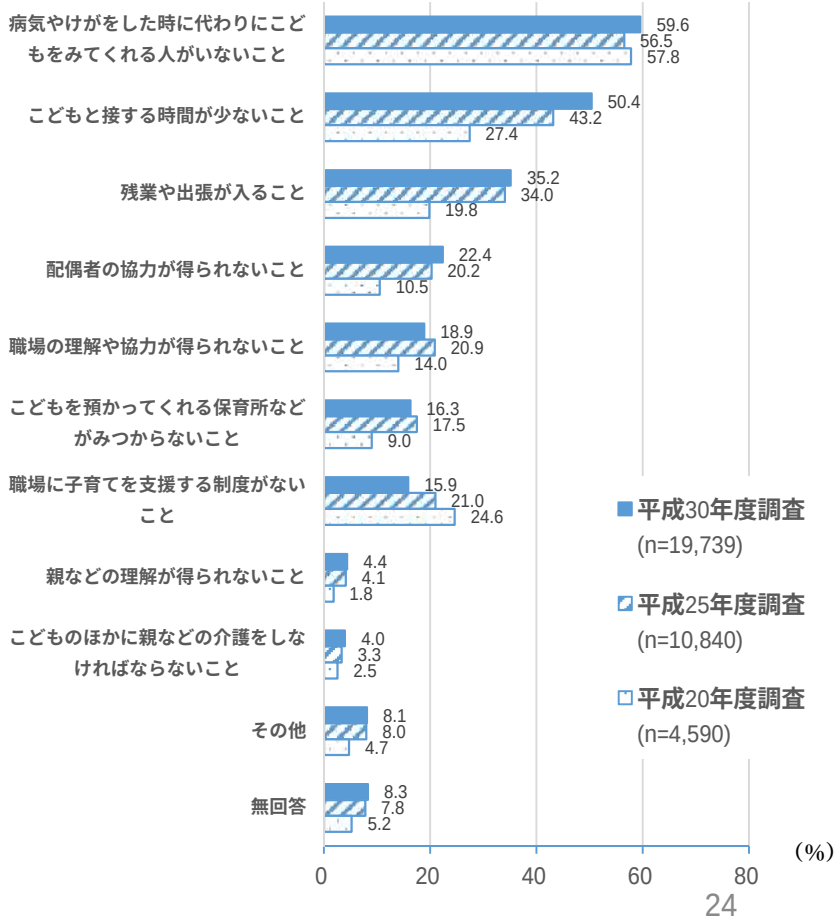
母親



父親



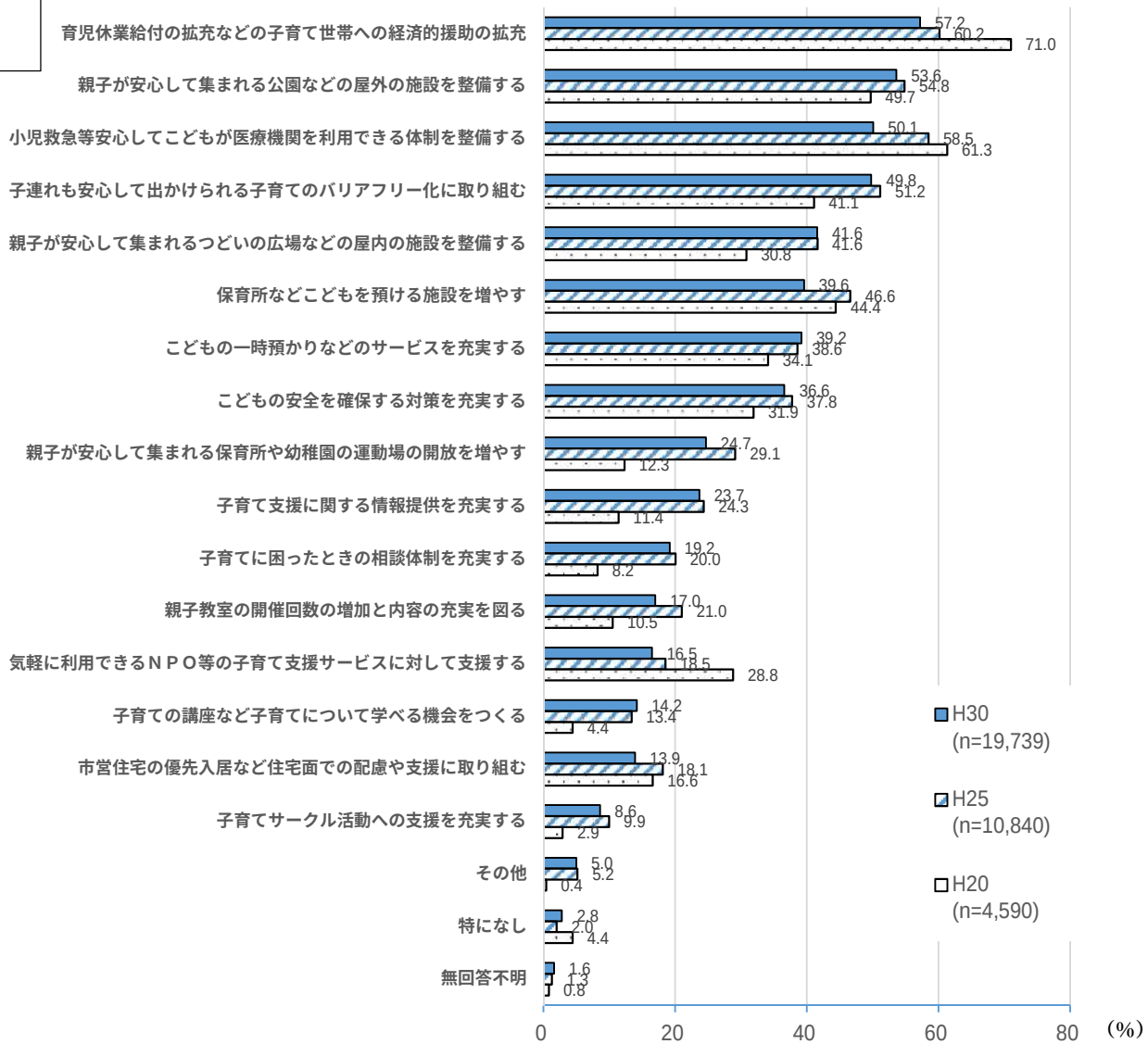
仕事・子育てを両立させる上で大変なこと（H30-25-20比較）



市・区に対して充実してほしい子育て支援サービス

- 市・区に対して充実してほしい子育て支援サービスは、「育児休業給付の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が57.2%で最も多く、次いで「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」が53.6%、「小児救急等安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」が50.1%となっている。
- 平成22年及び平成25年調査の結果に比べ、「育児休業給付の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」や「小児救急等安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」がポイントを下げている（改善している）。

市・区に充実してほしい子育て支援サービス（H30-25-20比較）



こども・子育て支援に関するニーズ調査等結果（就学児童用）について

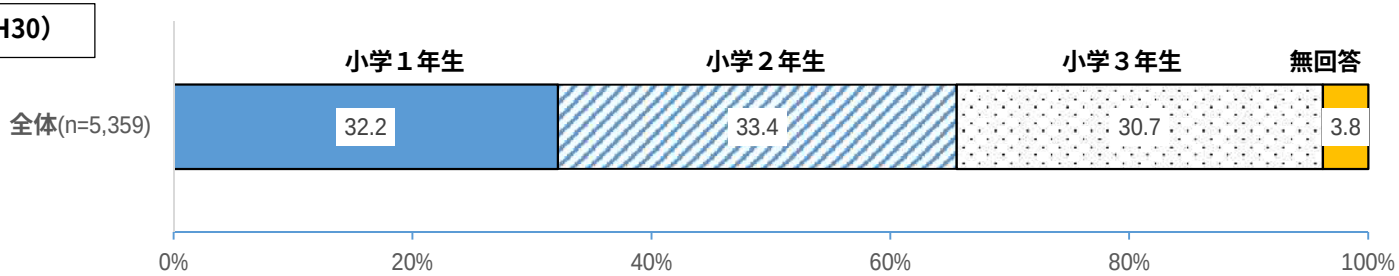
◆調査方法と回収状況

実施調査	大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査
	就学児童用
対象者	市内に在住する就学児童（小学1年生～3年生）の保護者
	住民基本台帳等から無作為抽出した12,000人（ただし、きょうだいで抽出された家庭については、複数の調査票が届かないよう調整したため、調査票送付数については、11,918通）
調査方法	調査対象者に調査票を郵送により配布し、郵送により回収。
調査期間	平成30年11月30日～12月21日
回収状況	有効回答数　5,359人 （有効回答率　45.0%）
	（平成25年調査）調査対象数　10,000人 有効回答数　4,771人（有効回答率　47.7%）

回答家庭のプロフィール

- あて名のこどもの学年は、「小学1年生」が32.2%、「小学2年生」が33.4%、「小学3年生」が30.7%となっている。

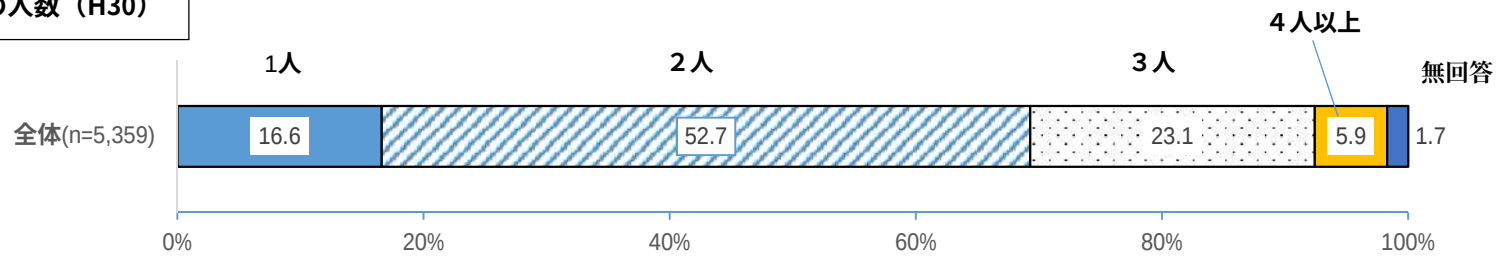
年齢別割合（H30）



回答家庭のプロフィール

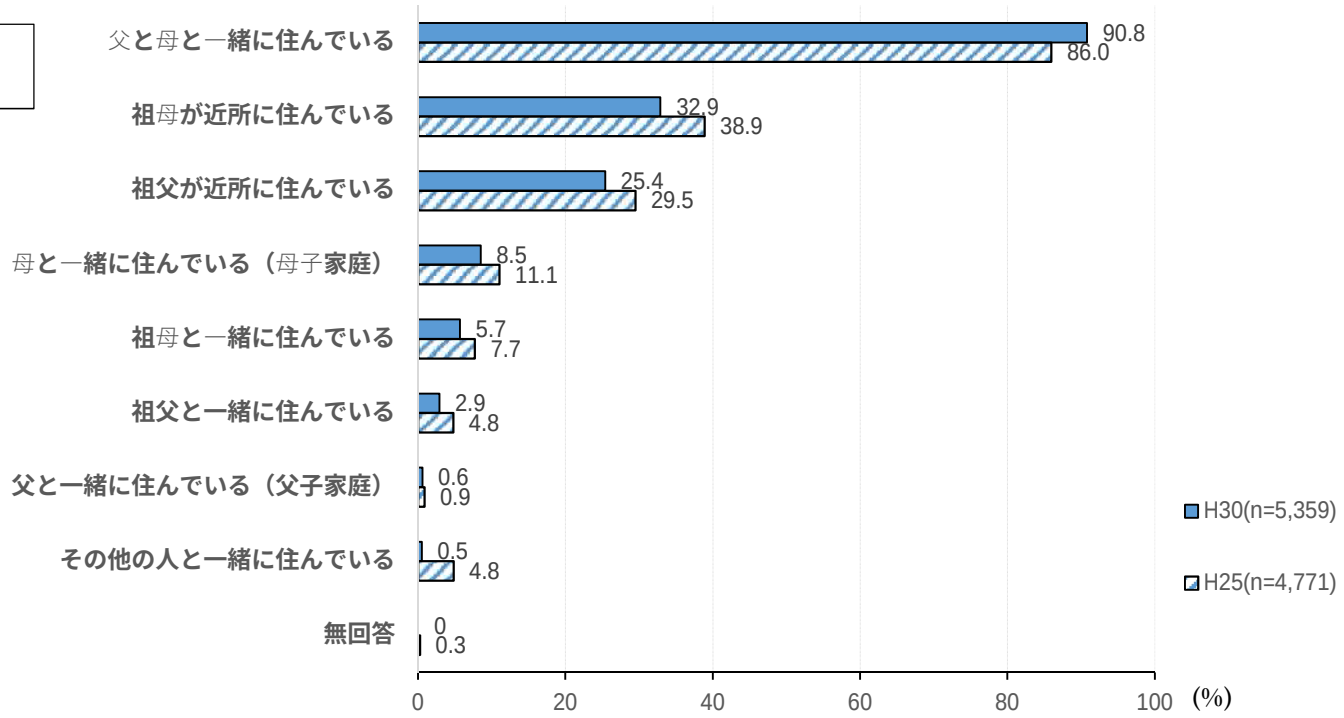
- こどもの人数は、「2人」が52.7%で最も多く、次いで「3人」が23.1%、「1人」が16.6%となっている。

こどもの人数（H30）



- 家族との同居・近居の状況は、90.8%が父母と一緒に住んでおり、「祖母が近所に住んでいる」が32.9%、「祖父が近所に住んでいる」が25.4%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「祖母が近所に住んでいる」、「祖父が近所に住んでいる」の割合が低くなっている。

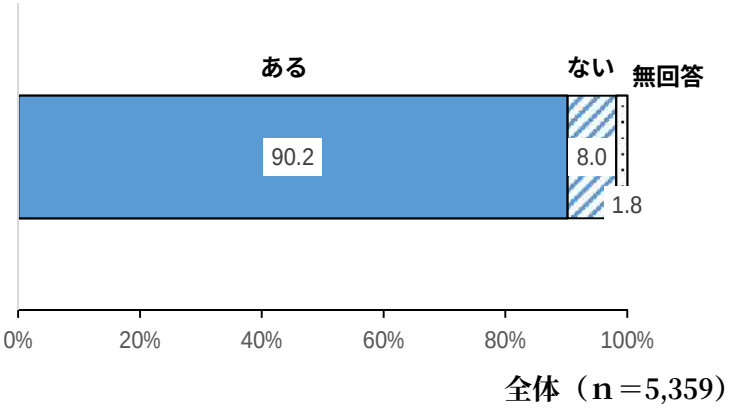
家族との同居・近居の状況
（H30－25比較）



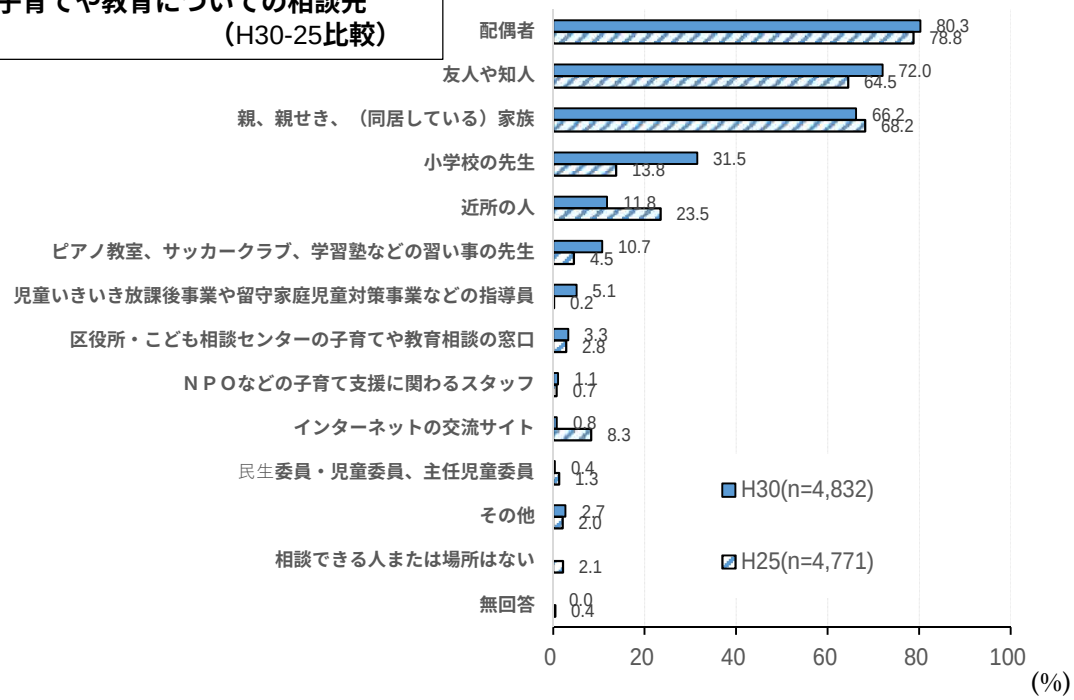
子育てや教育について気軽に相談できるところの有無/相談先

- 子育てや教育について気軽に相談できるところの有無については、「ある」が90.2%、「ない」が8.0%となっている。
- 相談先は「配偶者」が最も多く、次いで「友人や知人」「親、親せき（同居している）家族」が多い。
- 平成25年調査の結果と比べると、「小学校の先生」の割合が17.7ポイント高くなっている。

子育てや教育について気軽に相談できる人または場所の有無　（H30）



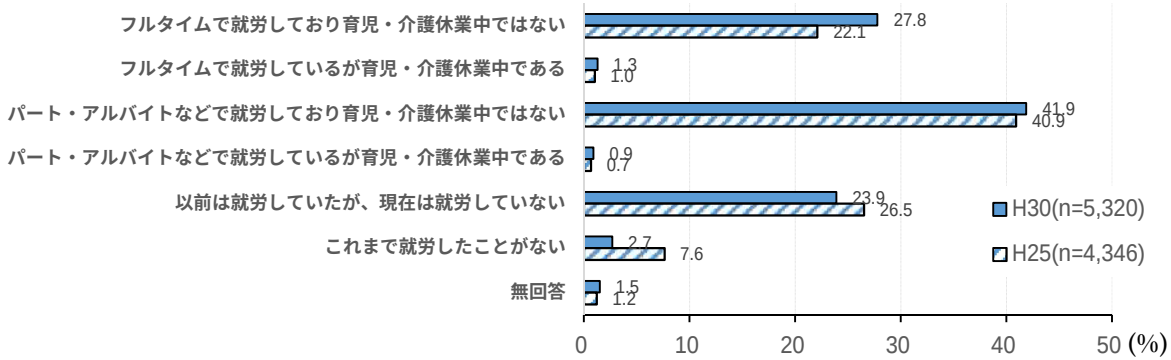
子育てや教育についての相談先（H30-25比較）



母親の就労状況（就学児童）

- 母親の現在の就労状況については、「パート・アルバイトなどで就労しており育児・介護休業中ではない」が41.9%で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており育児・介護休業中ではない」が27.8%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が23.9%となっている。

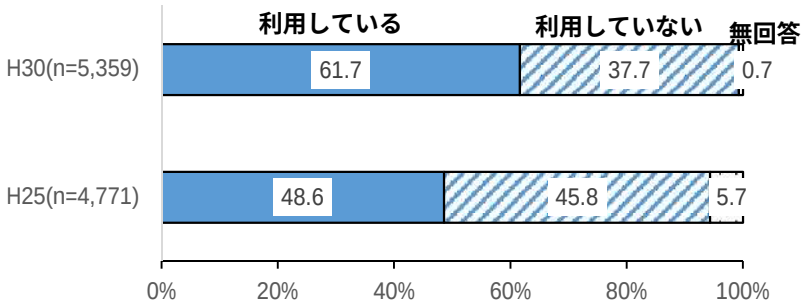
母親の就労状況（H30-25比較）



放課後の居場所を提供する事業の利用状況

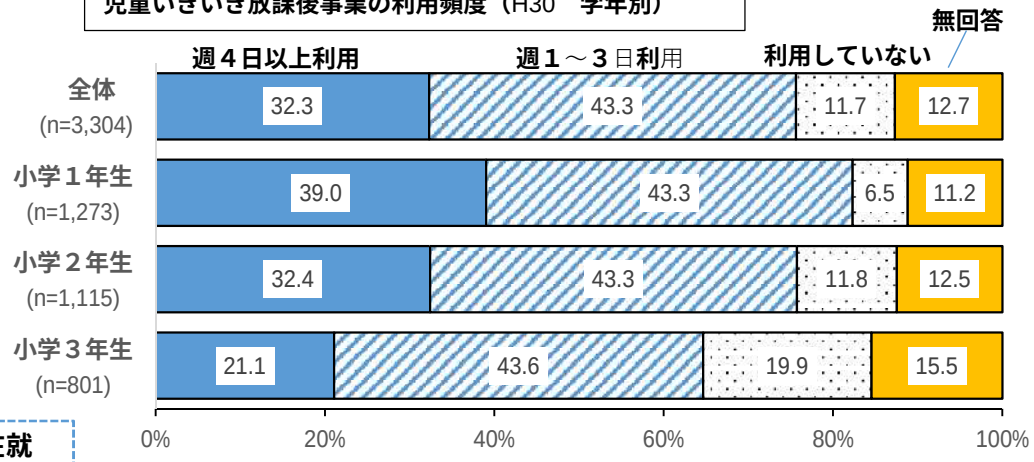
- 放課後の居場所を提供する事業の利用状況には、「利用している」が61.7%、「利用していない」が37.7%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「利用している」の割合が13.1%高くなっている。

放課後の居場所を提供する事業の利用状況（H30-25比較）



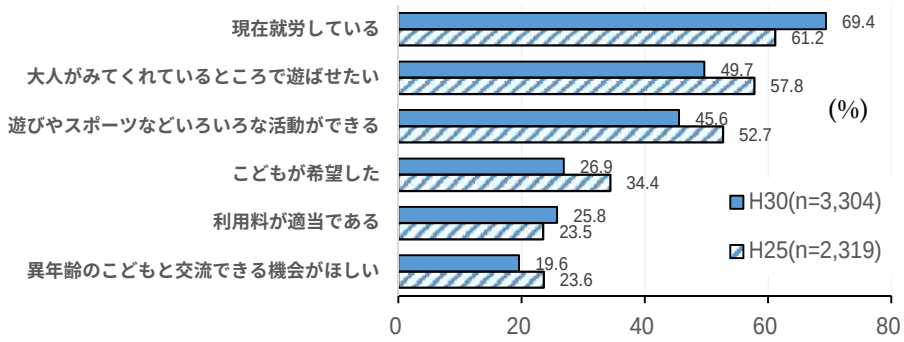
- 児童いきいき放課後事業の利用頻度は、平日は「週１～３日利用」が43.3%で最も多く、次いで「週4日以上利用」が32.3%となっている。「週1～3日利用」と「週4日以上利用」をあわせた『利用している』が75.6%となっている。
- 年齢別にみると、学年が上がるにつれて利用頻度が少なくなっている。

児童いきいき放課後事業の利用頻度（H30　学年別）



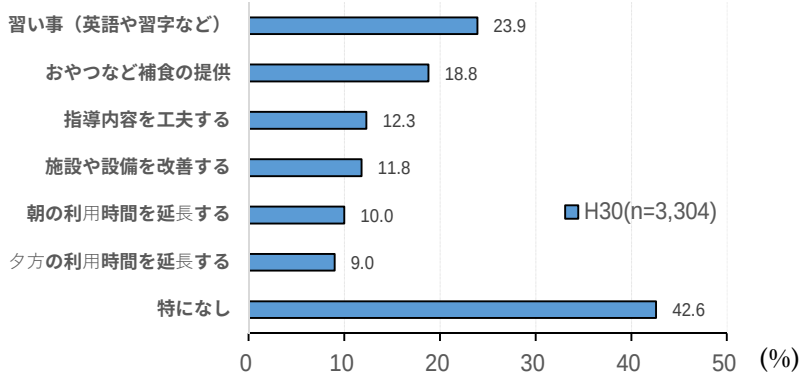
- 放課後の居場所を提供する事業を利用している理由は、「現在就労している」が69.4%で最も多く、次いで「大人がみてくれているところで遊ばせたい」が49.7%、「遊びやスポーツなどいろいろな活動ができる」が45.6%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「現在就労している」のポイントが高くなっている。

放課後の居場所を提供する場所を提供する事業を利用している理由（H30-25上位６項目）



- 事業者に希望することは、「特になし」が42.6%で最も多いが、希望することがある人では「習い事（英語や習字など）」が23.9%で最も多く、次いで「おやつなど補食の提供」が18.8%、「指導内容を工夫する」が12.3%となっている。

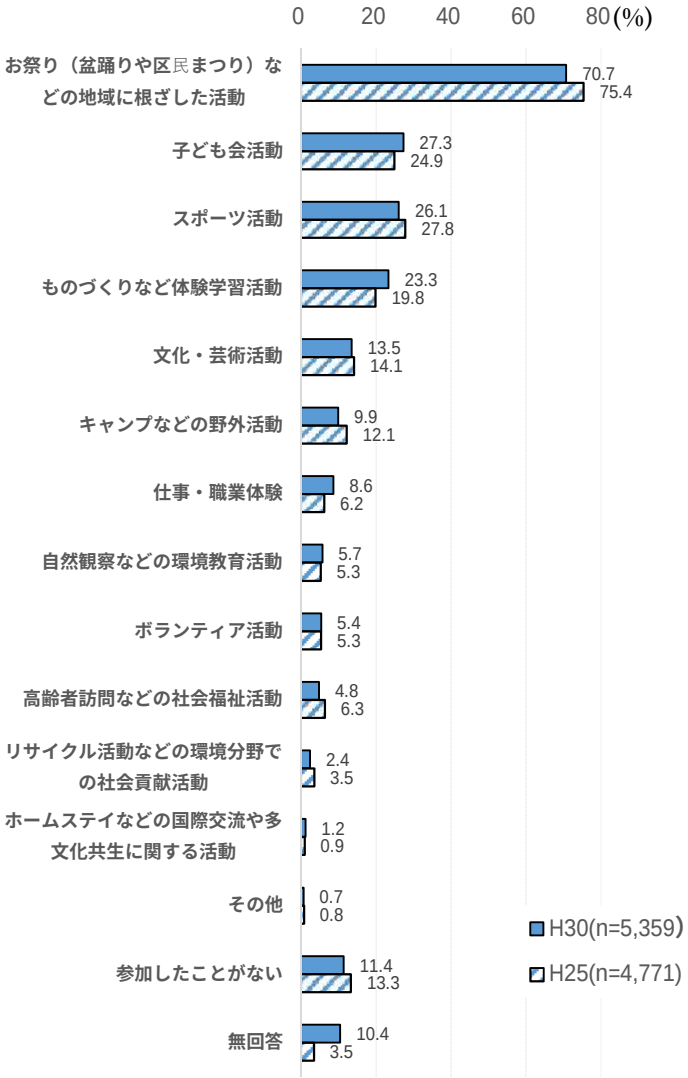
事業者に希望すること（H30上位６項目）



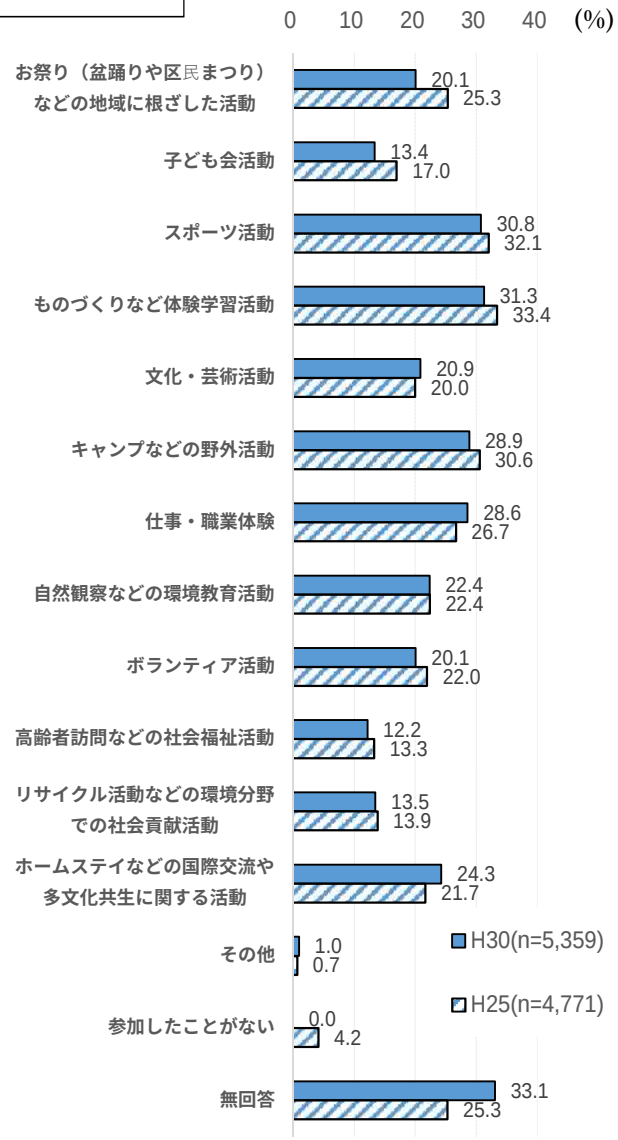
地域のグループ活動やイベントの参加状況

- 参加したことがある活動については、「お祭り（盆踊りや区民まつり）などの地域に根差した活動」が70.7%で最も多く、次いで「子ども会活動」が27.3%、「スポーツ活動」が26.1%となっている。
- 今後参加させたい活動については、「ものづくりなど体験学習活動」が31.3%で最も多く、次いで「スポーツ活動」が30.8%、「キャンプなどの野外活動」が28.9%となっている。

参加したことがある活動（H30-25比較）



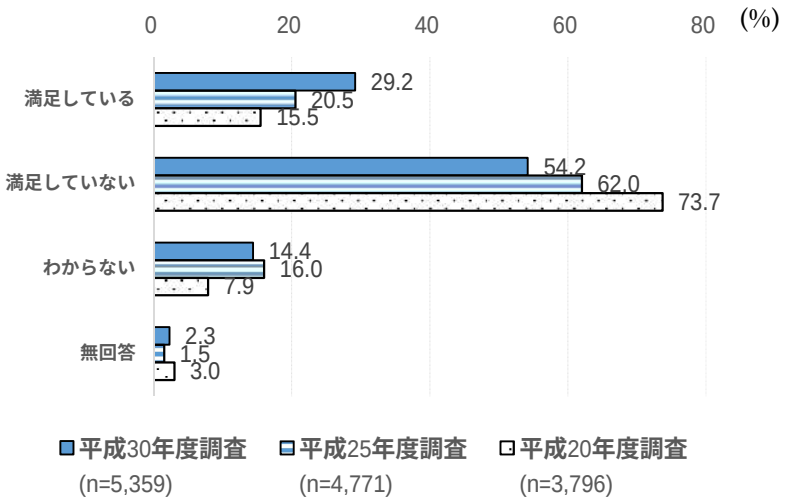
今後参加させたい活動（H30-25比較）



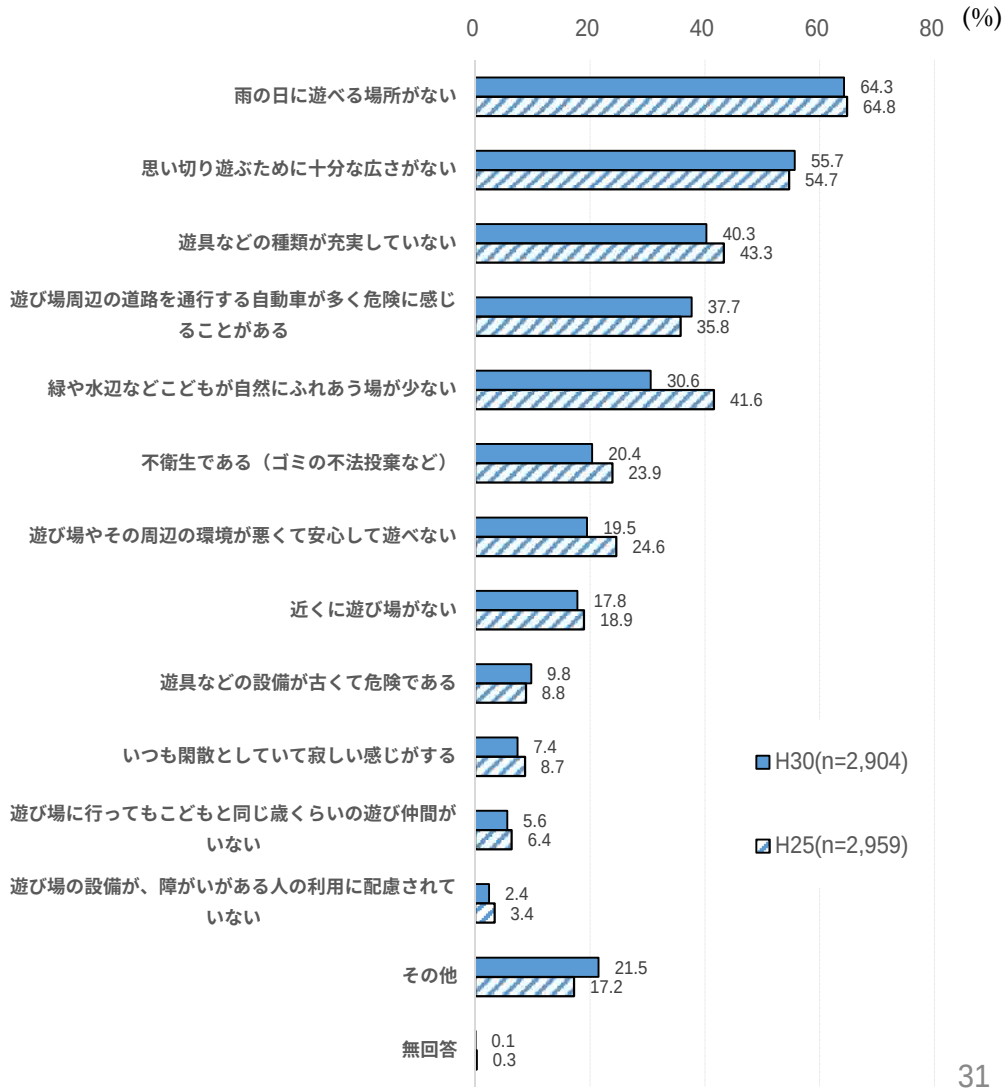
子育て環境①

- こどもの遊び場に関する満足度については、「満足している」が29.2%、「満足していない」が54.2%となっている。
- 平成20年及び平成25年調査の結果に比べ、「満足している」の割合が高くなっている。
- こどもの遊び場に日ごろ不満に感じていることについては、「雨の日に遊べる場所がない」が64.3%で最も多く、次いで「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が55.7%、「遊具などの種類が充実していない」が40.3%となっている。

こどもの遊び場に関する満足度（H30-25-20比較）



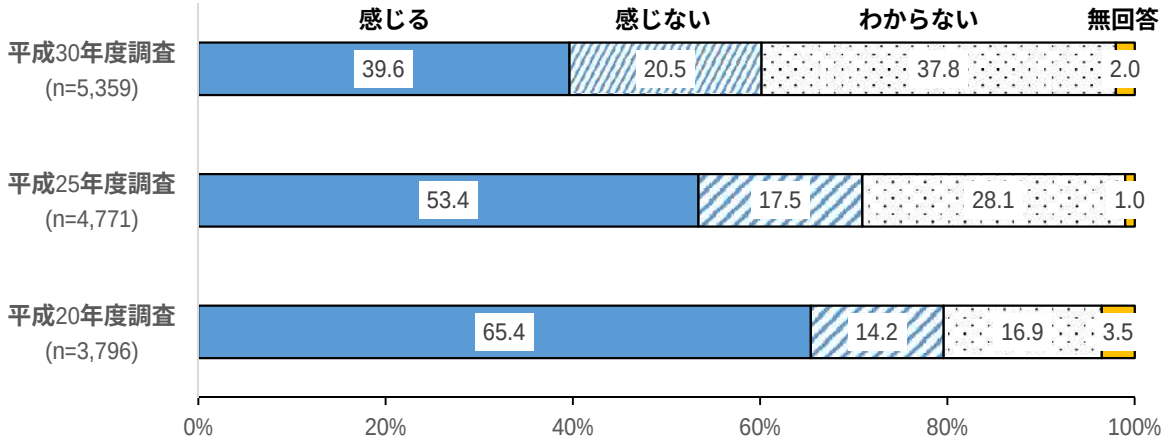
こどもの遊び場に日ごろ不満を感じること（H30-25比較）



子育て環境②

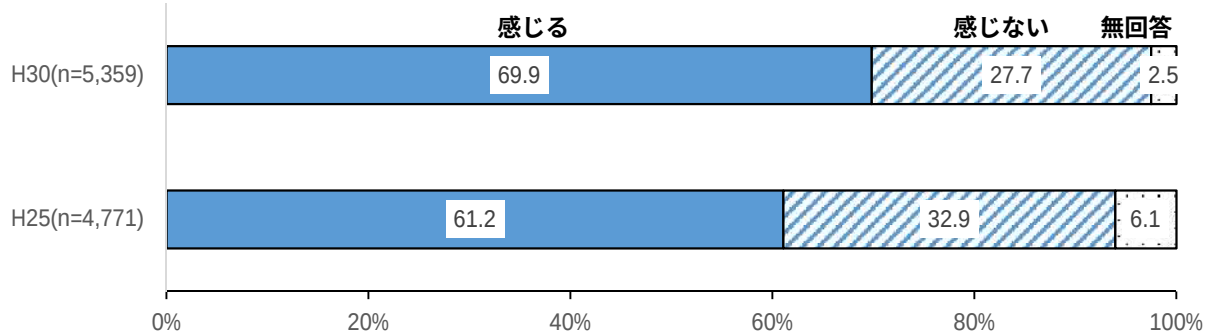
- こどもが巻き込まれる事故や犯罪が増加していると感じるかについては、「感じる」が39・6%で最も多く、「感じない」が20.5%となっている。
- 平成20年及び平成25年調査の結果に比べ、「感じる」の割合が低くなっている。

こどもが巻き込まれる事故や犯罪が増加していると感じるか（H30-25-20比較）



- 子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるかについては、「感じる」が69.9%、「感じない」が27.7%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「感じる」は平成25年調査（61.2%）より8.7ポイント高くなっている。

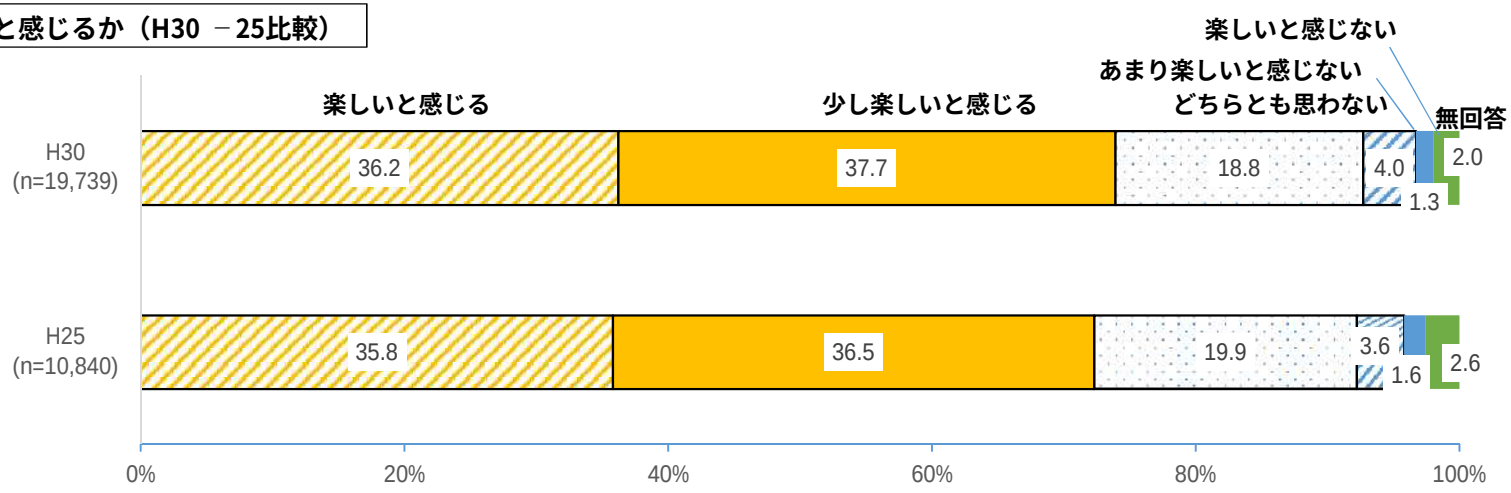
子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるか（H30-25比較）

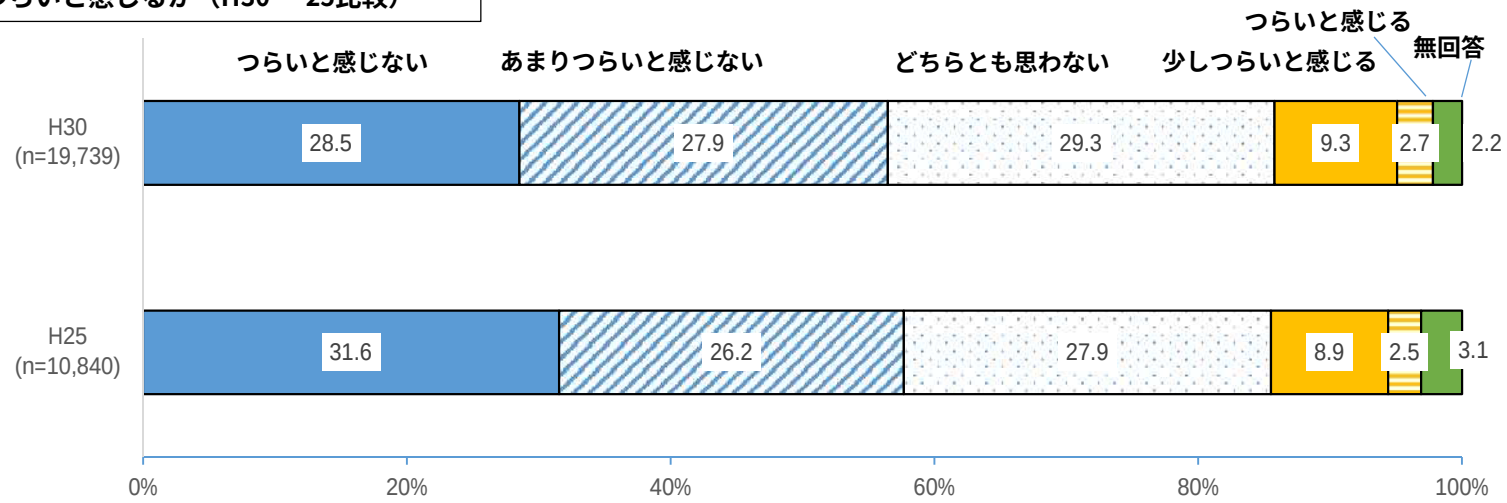


子育てについての楽しさや負担感の程度

- 子育てを楽しいと感じるかについては、「少し楽しいと感じる」が37.7%で最も多く、次いで「楽しいと感じる」が36.2%で、両者をあわせた『楽しいと感じる』は73.9%となっている。

子育てを楽しいと感じるか（H30 －25比較）



- 子育てをつらいと感じるかについては、「どちらとも思わない」が29.3%で最も多い。
- 「あまりつらいと感じない」（27.9%）と「つらいと感じない」（28.5%）をあわせた『つらいと感じない』は56.4%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べて、『つらいと感じない』は3.1%低くなっている。

子育てをつらいと感じるか（H30 －25比較）